

負の歴史遺産、歴史認識と博物館

会場：国立台湾歴史博物館（台湾・台南）

開催日：2017年7月14-15日

趣旨

自然災害や戦争、人権侵害が遺す爪痕として、議論を呼ぶ歴史的事件や歴史問題について、博物館がいかに向き合っていくかにますます注目が集まっている。こういった負の歴史は、人類の創造力とその成果を謳歌する文化遺産とは対照的に、負の歴史的遺産とみなされるが、安易に忘れられ、見過ごされるべきものではなく、歴史の重要な一部として扱うべきである。負の歴史的遺産をどのように受け継ぐかを学び、より成熟し、包容力ある歴史認識を築くことには重要な意義がある。しかし博物館は、いかにしてこれまでの負の歴史を記録し、語り、解釈し、活用しながら歴史認識を高める役割を果たしていけばよいのだろうか。そして、現在起きている負の出来事について、どのように行動し、当事者の記憶を守り、かつ社会の寛容さと学びを喚起していけばいいのだろうか。これらはすべて、今後探求し続けるべき新たな課題となっている。

この2017年、この問題において注目すべき取り組みが行われる。台湾の国立台湾歴史博物館と、日本の国立歴史民俗博物館が手を取り、東アジアの近現代史の流れに沿って、台日の自然災害とこれをめぐる社会意識および活動に関する資料をあらためて整理し、歴史の姿を今一度探る。この共同研究では、台湾側は2月に日本の国立歴史民俗博物館で、日本側は6月に台湾歴史博物館でそれぞれ展示を行う。歴史学と博物館学、いずれの角度から見ても協力、交流、対話といった点で豊かな成果が見込めるであろう。

さらに、この共同研究のきっかけは双方が近年、震災について行った歴史的意義を持つ回顧と反省から来ていることは特筆に値する。2014年、歴史民俗博物館では『歴史にみる震災』展、国立台湾歴史博物館で1999年9月21日に起きた台湾中部大地震を振り返る『島嶼、地動、重生：921十五周年回顧展』行われたが、いずれもお馴染みの自然科学や社会の関心という立場を大

きく越えたものであり、歴史的な観点から自然災害が人間社会に与える影響や、人間社会がいかに自然災害に向き合ったかを記録し、振り返るものとなった。

このほか、近年では台湾と日本の博物館や研究者たちが震災後の活動に関わっていることも注目に値するであろう。2011年の東日本大震災ののち、数年をかけ計画的に行われている文化財レスキュー活動では、多くの研究者が震災後直ちに被災地に入って生活文化財をレスキューし、リアルタイムで民族誌を作成して、非常時における被災地の記憶を残すと同時に、暮らしにまつわるものを整理し、文化的な記憶を立て直す支援も行っている。台湾の国立台湾歴史博物館でも、2016年2月6日の台湾南部地震の直後から被災地に入り、暮らしの記憶が詰まった物品を救出し、今年に入って所有者からの寄贈を受けて正式に収蔵品とした。

以上のような背景を受け、台湾で開かれる『台湾と日本—震災史とともにたどる近現代—』展の会期中、これまでを振り返る意味で行うフォーラムの意義は極めて大きい。実践に取り組む人々をスピーカーとして招聘し、こういった実践行動が歴史学や博物館学にもたらす気づきを紹介、振り返りつつ、より奥行きのある、博物館をベースとした人文科学の実践を呼び起こしたいとするものである。

プログラム

7月14日

開催の挨拶 王長華・黄貞燕

第一部：天災、歴史学と博物館

司会：王長華

原山皓介

「歴史にみる震災」展（2014・日本）から考えたこと：自然災害をいかに記録できるか—歴史学と社会学の交差点

高鈺昌 / 趙小菁

「島嶼、地動、重生」展（2014，台湾）：災害史の展示と世代をつなぐ記憶

荒川章二＋陳怡宏

『台湾と日本—震災史とともにたどる近現代—』展（2017・台湾・日本）：
東アジアにおける近現代史研究の意義

* 『台湾と日本—震災史とともにたどる近現代—』展を参加者に案内

7月15日

第二部：天災、復興と博物館

司会：黄貞燕

奥村弘

地域歴史遺産の可能性：地域歴史学と地域歴史資料を守ること

謝仕淵 / 王美雯

思い出のものを救出する—台湾南部地震の中の博物館と社会

日高真吾

生活文化の記憶を取り戻す—文化財レスキューの現場から

加藤幸治

復興キュレーション：復興期に展開する文化創造運動

討論

コーディネーター：陳佳利

7月16日

見学：小林村 / 日光小林地区訪問

台湾南部・高雄市甲仙区（当時は高雄県甲仙郷）の小林村は、2009年8月に台湾南部を直撃した台風8号によって河川の氾濫と土石流が起き、全戸が土砂に埋没するという大きな被害を受けた。この地に眠る家族をそつと見守るため、生存者らは被災地をそのまま保存することに決め、記念公園を整備し犠牲者をしのんでいる。村の中で生存した人々は近隣に建てられた家屋に移り、新たなコミュニティ「小林地区」を築いた。その中の「日光小林地区」ではさまざまな農作物を生産し、新たな産業を立ち上げるとともに、先住民集落に伝わる伝統的な刺繍などの工芸を通じて地元の文化を取り戻す取り組みを行っている。